ランキン新駐日大使

トピックス

新駐日大使にランキン氏
ニューヨーク総領事から転任

新しい駐日カナダ大使に、ブルース・I・ランキン氏が任命された。ランキン氏はマニトバ州出身で、五七才。一九四五年に通商産業省に入り、オーストラリア、インド、ジャマイカ、スペイン、スイス、米国（ニューヨーク、副領事）へ赴任。一九六四年に外務省へ移り、駐ベネズエラ大使（駐ドミニカ共和国大使を兼任）をしたあと、一九七〇年以来、ニューヨーク総領事を勤めていた。

ランキン氏は、また、国連で経済関係の仕事に従事し、一九七二年には国連総会第二委員会（経済、財政委員会）の委員長に選ばれた。

新大使の着任予定は二月二日。

海外文化交流を推進
手始めに英、仏、日、米と

カナダの外務省は、主要海外諸国との文化交流を拡大、多角化するための新五ヵ年計画を実施することになった。これは、カナダが二国語、多様文化の国であり、かつ好むと好まざることにかかわらず米国の文化的影響を強く受けているため、①英国、フランスとのつながりを維持、強化する、②英連邦およびフランス語系諸国の文化機関への参加を堅持する、③ヨーロッパ、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカのいくつかの国々に対して文化交流を多角化する―との基本政策にもとづくもの。

新五ヵ年計画では、この基本方針に沿って、次の三つが計画されている。第一は、主要な文化行事について活動内容の枠を広げ、文化交流する国の数をふやすと共に、カナダの芸術家や知識人が海外の芸術家・知識人と交流を深めるのに積極的に協力する。第二に、新たなニーズに応え、旧来の交流計画を、学問的分野での教授交換とか社会的・文化的分野での青少年交流といった、新しい計画に切り替える。第三に、最近のユネスコの調査結果を参考に、文化的物品の交流よりも人間の交流にもっと力を入れる。

この拡大文化交流計画の第一弾が、一九七四年六月、英国に設置されたカナダ研究財団。財団は、英国の高等教育機関におけるカナダ研究を推進するための財政的支援をするパイプになるもので、当初基金約三六万ドルのうち三分の一はカナダ政府が供出、残りをカナダ・英国双方の民間献金によった。

カナダ外務省は、現在、英国以外にフランス、日本、米国をすでにこの文化交流五ヵ年計画に含めているが、今年はさらにベルギー、西ドイツ、イタリアにも拡大し、大学教授の交換や共同研究の推進、カナダに関する書籍の提供、会議やセミナーの開催を進めていく考えである。

着々進むオリンピック準備
いよいよあと半年で開会

モントリオール・オリンピックは、開会までにあとわずか半年足らず。ストなどで遅れていた工事はほとんど予定通りに進んでおり、巨大なドーム状のオリンピック・スタジアム（水泳競技、室内競技場として使用。収容能力七万人）、柱を一切使わないオリンピック・ベロドローム（自転車競技、レスリング、柔道などが行なわれる、七万五千人収容の主競技場）などの完成も間近い。その他の競技場の大部分は、すでにある施設で間に合わせる。

「ようこそモントリオールへ」を歌うルネ・シマード

そのほか、宇宙衛星によるオリンピック・テレビ世界中継が決まり、世界各国からの約六千人の取材陣用に、プレス・センターも確保された。

また、モントリオール・オリンピックのテーマ・ミュージックのレコードもすでに発売された。トランペット吹奏のほか、オリンピック・マーチ、ボサノバ、ライト・ロックのリズム演奏、それにルネ・シマードが歌う「ようこそモントリオールへ」が吹込まれている。

カナダの対発展途上国援助
国連目標（GNPの一％）を達成

経済開発機力機構（OECD）によると、カナダは一九七四年、発展途上国に対し総額十六億七千万米ドル（七三年は十一億四六〇万ドル）の経済協力を行なった。これは同年の国民総生産（GNP）の一・一八％にのぼる。一九七四年に国連目標の対GNP比一％に達したのは、カナダ、オランダ、フランス、スエーデン、ベルギーの五ヵ国。

総額のうち、七億一三四〇万ドルは政府開発援助（ODA）で、対GNP比は〇・五〇％（七三年は〇・四三％）。

なお、一九七五―七六年次のカナダの対外援助は九億三百万ドルになる見込み（前年は七億三千百万ドル）。政府の三財政緊縮政策によって当初計画より三千万ドル縮小されたが、小麦などカナダ国際開発局（CIDA）が供給する物品のいくつかの価格が低落しているため、それほどの影響はないものとみられる。

◆大使館案内◆
商務部

日本市場へのカナダの輸出を振興し、両国間の貿易関係を発展させるのが商務部の主な任務で、ドーソン公使（経済・商務担当）を含め、エネルギーおよび資源、農業、漁業、林産品、製造業などを専門とするカナダ人担当官八人と日本人担当官八人、さらに秘書十一人、翻訳官一人のスタッフからなっている。

商務部の主な仕事は、日本に輸出しようとするカナダ企業からの協力要請に応えると共に、日本の企業に輸入先を紹介して輸出入契約を斡旋することにある。そのほか、マーケッティング全般にわたって、カナダの製造業者からの相談に応じる。また、ここ数年来、これらの業務と平行して、潜在的市場拡張の機会を系統的に探求し、展示会や業界代表団の訪問といった輸出促進企画を奨励、実施してきた。これは資源輸出の加工度向上、カナダの輸出全体に占める完成品の割合の増加、貿易先の多角化、国内での雇用機会の創出という、政府政策と結びついている。

商務部はさらに、ライセンス提携、合弁事業、産業投資などを通じて、カナダへの工業技術の導入を奨励し、カナダの産業基盤を合理化、強化するという重要な役割を担っており、カナダの通商産業省や地域経済開発省、外国投資審査庁などと緊密に提携して、政府政策に合った外資の選択的導入を図ってきた。同時に、技術輸出や日本での合弁事業を希望するカナダ企業に対しては、適当な日本企業を紹介している。

表紙の写真　カナダは多様性の国だ。土地も国民も。五時間半もの時差があり、氷と大山岳地帯と草原と大都市が混在するカナダは、二千二百万の人々が民族のモザイクをなしている。記事は四、五ページ。